

令和元年度 1 学期終業式講話

校長 岩田 学

1 学期を振り返ってみると、まず篠竹祭。宇宙の煌めきと青春をスローガンに掲げ、七夕という統一テーマを設けたことで、会場全体の一体感が、うまく醸し出されました。本当に素晴らしかった。次にシード校として出場した野球部の堂々とした戦いぶり。苦しい展開での逆転サヨナラ勝ち。そして、何より颯爽とした全力疾走が、観るものの心を揺さぶりました。天晴れ。

いよいよ、夏休みを迎えます。政治を中心に、高い低い欲求が不調和のまま入り乱れているように見える日本社会で、皆さんを導くのは、日々の学びで得た叡智と、生徒会活動、クラブ活動で得た他者と協働する力だと思います。不易の部分をつつまでも大切にしたい。

3 年生諸君。大学受験といっても何も恐れることはありません。ここからは、物質的要求やつまらぬ理屈とはかけ離れた、精神的な勉強を深めてほしい。学問に真正面から向き合った結果、複雑に見えていた世界の方から、キミだけが持つことのできる人生の目標や、生き甲斐がやって来るものだと思います。“高校生最後の夏”に鍛えてほしい。篠ノ井高校で同期として出会った者同士、お互いに力を合わせて、助け合いながら、一つひとつ乗り越えて行こうではないか。

1、2 年生のみなさんは、前向きに自らの志を語れるようになったでしょうか。ぜひ知っておいて欲しいのは、「無理」とか「できない」というネガティブな言葉は、脳をハイジャックし、キミのやる気を奪い能力を発揮させないようにしてしまうということです。逆に「できる。必ずできる」と、ポジティブな情報を与えることによって脳はダイナミックに進化することが解明されています。脳は生まれつきのものではなく、環境と、前向きに生きようとするキミの「強い意志」から後天的に進化していくことを、どうか忘れないで下さい。

私たちは、過去を変える事はできませんが、未来はどのようにでも変える事ができます。どうか、自分の可能性を信じ、この夏休み期間中もあなた自身を進化させ、まだ出会っていない未知の自分を発見して欲しいと願います。